大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	身近な世界遺産を巡る旅①	場所	天草市、長崎市

筆者にとって身近な世界遺産は、まず「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」である。これは長崎と天草地方の潜伏キリシタンが、禁教期に密かに信仰を続ける中で育んだ宗教に関する文化的伝統を物語る 12 の構成資産より成り、北は平戸市、南は天草市、東は南島原市、西は五島市まで幅広い範囲に分布している。

このうち筆者が訪問したのは、天草市の﨑津集落、長崎市外海(そとめ)の出津集落、大浦天主堂であるが、キリスト教禁教政策の中で潜伏キリシタンが仏教や神道等の在来の宗教を装い、組織的で独特な信仰形態を育んでいった歴史と物語を感じることができる。残りの構成資産を訪ねることで、さらにストーリーを紡いでいきたい。

天草市 﨑津集落

長崎市 外海(そとめ)の出津集落

長崎市 大浦天主堂

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	身近な世界遺産を巡る旅②	場所	宇城市、長崎市等

次に身近な世界遺産は、「明治日本の産業革命遺産」である。これは幕末期の西洋技術の導入や、その後、国家主導で進めた3つの重工業分野（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）の近代工業化の過程を証明する資産として評価されたものであり、九州内には 16 構成資産、23 施設があり、8施設が現役で稼働中である。

このうち筆者が訪問したのは、三角西港、端島炭鉱（軍艦島）、旧グラバー住宅、旧集成館であるが、約半世紀という短い期間に急速な産業化を成し遂げていった歩みを感じることができる。残りの構成資産を訪ねることで、さらに日本の近代化の歩みとそれに秘められたストーリーを紡いでいきたい。

宇城市　三角西港（左）、長崎市　三菱重工長崎造船所　ジャイアント・カンチレバークレーン（右）

長崎市　端島炭鉱（軍艦島）

長崎市　旧グラバー住宅（右）、鹿児島市　旧集成館機械工場（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	身近な世界遺産を巡る旅③	場所	東京都台東区

筆者が最も訪問する機会が多い世界遺産は、「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」として世界遺産に登録されたコルビュジエの建築作品（7ヶ国 17 作品）の中の国立西洋美術館である。これは日本に唯一残されたコルビュジエの建築作品で、コルビュジエが提唱した近代建築の五原則を表現し、「無限発展美術館」の思想を体現している。松方コレクションや美術館建設の経緯、物語を踏まえて訪問すると、より身近に感じられる美術館である。

筆者はドイツのシュトゥッツガルトのヴァイセンホフ・ジードルングを見学したことはあるが、国境や大陸をまたいだ世界遺産は貴重なものであり、今後、フランスのサヴォア邸やロンシャンの礼拝堂を訪ね、コルビュジエを通した近代建築の歩みを辿ってみたい。

東京都台東区 国立西洋美術館

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	石橋の魅力を体感する旅①	場所	長崎市、朝倉市等

石橋も地域の魅力資源の一つである。文化財クラスの有名なものもあれば、人知れず秘かに佇んでいるものもある。石橋の魅力は周辺の自然景観と調和し、自然の移ろいに合わせて四季折々の変化を見せてくれることである。そして何よりの魅力はアーチが作る曲線美であり、特に眼鏡橋では水に映ると懐かしい眼鏡の形が現れる。

先人たちが築き上げてきた技術と知恵には驚かされるものがあり、また、その技術と知恵を後世に伝え、全国各地に展開していることも特筆すべきことである。

長崎市　中島川に架かる眼鏡橋

朝倉市秋月　野鳥川に架かる眼鏡橋

上益城郡山都町　通潤橋

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	石橋の魅力を体感する旅②	場所	鹿児島市、諫早市

石橋の中には集中豪雨による洪水で流失したものも少なくない。その代表的なものが鹿児島市の甲突川に架かっていた五石橋（武之橋、高麗橋、西田橋、新上橋、玉江橋）であり、1993 年の集中豪雨による洪水で武之橋と新上橋が流失、残りの3橋が石橋記念公園に移設復元された。

また、諫早市の本明川に架かっていた眼鏡橋は、1957 年の諫早大水害では橋そのものの被害は少なかったが、眼鏡橋がせき止めた流木やがれきが水の流れを変え、被害を拡大させたという指摘により解体する案も浮上した。しかし、市のシンボルかつ文化財であることを理由に当時の市長らが尽力し、日本の石橋として初めて国の重要文化財に指定、諫早公園内に移設され、今も美しい姿を水面に映している。

鹿児島市 石橋記念公園内の高麗橋

鹿児島市 石橋記念公園内の玉江橋（左）、西田橋（右）

諫早市 諫早公園内の眼鏡橋

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	石橋の魅力を体感する旅③	場所	八代市

筆者は石橋の魅力に惹かれ、八代市東陽町種山にある石工の郷を訪ねたこともあるが、その匠の技術と知恵が種山から熊本県へ、そして九州各地、全国へと伝承し展開していることを考えると、様々なストーリーがあることがわかる。そうした視点で地域を訪ね歩くことも楽しいと思う。

また、石橋は世界のいろいろな場所に存在する。それぞれの石橋の歴史や日本の石橋との比較をすることも、石橋の技術や地域性を考える上で有効である。『石橋』をテーマとした国際的な広域連携の取り組みも可能ではないだろうか。

八代市　石工の郷・東陽町に残る石橋群の一部

八代市　石工の郷・東陽町にある橋本勘五郎作のひねり灯籠（左）、種山石工の祖・林七の墓（中）、種山石工たちの技術と知恵を伝える石匠館（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	歴史あるお寺や神社を巡る旅①－１	場所	霧島市、長崎市等

身近に存在するお寺や神社であるが、その数はお寺が約 77,000 社、神社が約 81,000 社、合わせて約 158,000 社である（2019 年度 宗教統計調査）。その数はコンビニよりも多く、いかに市民生活に根付いたものであるかが理解できる。その中には著名な寺社もあれば、寺町や門前町として地域全体として魅力スポットとなっている地域もある。

その一方、都市化の中でポツンと取り残されたような寺社もあるが、信仰の場所としてだけでなく、地域の歴史を伝え、鎮守の森として環境に貢献する空間となっている。人々の生活が息づく空間、パワースポット、癒しの空間等として再評価し、地域のまちづくりの中でもっと活用していってほしい。

霧島市　神々しい雰囲気が漂う霧島神宮

長崎市　諏訪神社（左）、鹿島市　祐徳稲荷神社（右）

宇佐市　宇佐神宮（左）、阿蘇市　熊本地震前の阿蘇神社（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	歴史あるお寺や神社を巡る旅①－２	場所	高森町、諫早市等

身近に存在するお寺や神社であるが、その数はお寺が約 77,000 社、神社が約 81,000 社、合わせて約 158,000 社である（2019 年度 宗教統計調査）。その数はコンビニよりも多く、いかに市民生活に根付いたものであるかが理解できる。その中には著名な寺社もあれば、寺町や門前町として地域全体として魅力スポットとなっている地域もある。

その一方、都市化の中でポツンと取り残されたような寺社もあるが、信仰の場所としてだけでなく、地域の歴史を伝え、鎮守の森として環境に貢献する空間となっている。人々の生活が息づく空間、パワースポット、癒しの空間等として再評価し、地域のまちづくりの中でもっと活用していってほしい。

高森町 上色見熊野座神社（かみしきみくまのいます）の参道（左）、パワースポットとなっている穿戸岩（うげといわ）（右）

諫早市 諫早神社とクス群（左）、長崎市 松森神社とクス群（右）

福岡市 鎮守の森となっている小烏神社（左）、大木町 鎮守の森となっている天満神社（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	歴史あるお寺や神社を巡る旅②	場所	国東市、豊後高田市

寺町の魅力については前に触れたが、お寺にもそれぞれの地域に息づく信仰文化が存在する。筆者が訪問した地域では国東半島の六郷満山と呼ばれる寺院群が特に印象に残っている。宇佐・八幡神の影響を強く受けながらも、厳しい地形での修行を好む山岳宗教との融合を経て、神仏習合の色が濃い独特の六郷満山文化を花開かせた。

2018 年に開山 1300 年を迎え、神仏習合の文化が今日まで脈々と受け継がれており、宇佐神宮、両子寺、文殊仙寺、富貴寺等 31 の霊場巡りを楽しむことができる。

国東市 両子寺

国東市 文殊仙寺

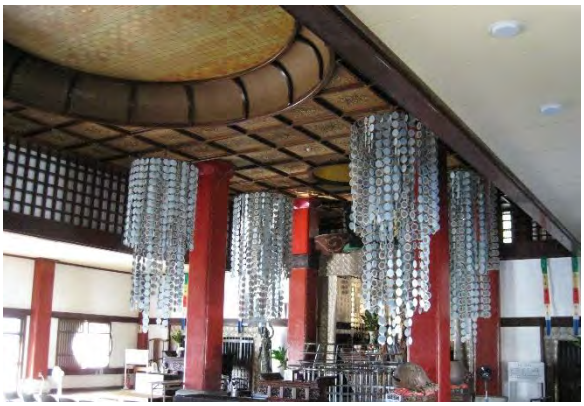
豊後高田市 富貴寺

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	歴史あるお寺や神社を巡る旅③－１	場所	長崎市

昔から中国文化の影響を色濃く受けてきた長崎市には、唐寺と呼ばれるいくつかの寺院がある。唐寺とは日本在住の中国人（華僑）が自分たちの出身地別に建てた寺院で、「媽祖（まそ）」と呼ばれる海の安全を守る神様が祀られているのが特徴である。

そのうちの代表的な寺院は「長崎四福寺」と呼ばれる崇福寺、興福寺、福済寺、聖福寺であり、日本の一般的な寺院とは異なり独特の文化を育んできており、建物の意匠や形態等にもそれが表れている。国宝や文化財に指定されている建造物も多い。

長崎市　崇福寺



長崎市　福済寺

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	歴史あるお寺や神社を巡る旅③－２	場所	長崎市

昔から中国文化の影響を色濃く受けてきた長崎市には、唐寺と呼ばれるいくつかの寺院がある。唐寺とは日本在住の中国人（華僑）が自分たちの出身地別に建てた寺院で、「媽祖（まそ）」と呼ばれる海の安全を守る神様が祀られているのが特徴である。

そのうちの代表的な寺院は「長崎四福寺」と呼ばれる崇福寺、興福寺、福済寺、聖福寺であり、日本の一般的な寺院とは異なり独特の文化を育んできており、建物の意匠や形態等にもそれが表れている。国宝や文化財に指定されている建造物も多い。

長崎市　興福寺

長崎市　聖福寺

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	赤煉瓦建築を巡る旅①－１	場所	東京都千代田区等

北海道から九州まで各地に残る赤煉瓦建築は、明治以降の日本の近代化の歴史を象徴するものである。多くの赤煉瓦建築が解体される一方、文化財や地域のシンボルとして保存・活用されているものもある。優雅な意匠とともに、近代化の過程で失われてきたもの、忘れてきたものに想いを馳せながら赤煉瓦建築を見て回ることも、今後の都市づくりや地域づくりを考える上で参考になる。

赤煉瓦は東京駅や富岡製糸場のような規模の大きな建物から小さな教会、町家の防火塀まで大小様々な建造物で使われており、その積み方にもイギリス積み、フランス積み、ドイツ積み等があり、それぞれの建造物の歴史とあわせて様々な視点で楽しむことができる。

東京都千代田区　東京駅丸の内駅舎

富岡市　富岡製糸場

函館市　金森赤レンガ倉庫

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	赤煉瓦建築を巡る旅①－２	場所	福岡市、大分市等

北海道から九州まで各地に残る赤煉瓦建築は、明治以降の日本の近代化の歴史を象徴するものである。多くの赤煉瓦建築が解体される一方、文化財や地域のシンボルとして保存・活用されているものもある。優雅な意匠とともに、近代化の過程で失われてきたもの、忘れてきたものに想いを馳せながら赤煉瓦建築を見て回ることも、今後の都市づくりや地域づくりを考える上で参考になる。

赤煉瓦は東京駅や富岡製糸場のような規模の大きな建物から小さな教会、町家の防火塀まで大小様々な建造物で使われており、その積み方にもイギリス積み、フランス積み、ドイツ積み等があり、それぞれの建造物の歴史とあわせて様々な視点で楽しむことができる。

福岡市　福岡市赤煉瓦文化館

大分市　大分銀行赤レンガ館

唐津市　旧唐津銀行「辰野金吾記念館」

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	赤煉瓦建築を巡る旅①－３	場所	大刀洗町、熊本市等

北海道から九州まで各地に残る赤煉瓦建築は、明治以降の日本の近代化の歴史を象徴するものである。多くの赤煉瓦建築が解体される一方、文化財や地域のシンボルとして保存・活用されているものもある。優雅な意匠とともに、近代化の過程で失われてきたもの、忘れてきたものに想いを馳せながら赤煉瓦建築を見て回ることも、今後の都市づくりや地域づくりを考える上で参考になる。

赤煉瓦は東京駅や富岡製糸場のような規模の大きな建物から小さな教会、町家の防火塀まで大小様々な建造物で使われており、その積み方にもイギリス積み、フランス積み、ドイツ積み等があり、それぞれの建造物の歴史とあわせて様々な視点で楽しむことができる。

大刀洗町　今村天主堂

熊本市　古町の西村邸

長崎市　オランダ坂横の赤煉瓦塀（左）、孔子廟横の赤煉瓦塀（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	わが国の近代化の歩みを体感する旅①－１	場所	長崎市、郡山市等

日本の近代化を象徴するものの一つに鉄道と建築がある。鉄道が導入されると大工の棟梁たちによる擬洋風建築が現れた。筆者が訪問した建物としては、旧グラバー住宅（1863 年完成）や開成館（1874 年完成）、旧開智学校（1876 年完成）等がある。

その後、工部大学校（現東京大学工学部）が 1877 年に開校すると、ジョサイア・コンドルの下で学んだ辰野金吾や曽禰達蔵、片山東熊らが新しい建築の担い手となり、ルネッサンス様式の建物が東京を中心に建設されていった。その頃の代表的な建物が日本銀行本店（1896 年完成）、赤坂離宮（1909 年完成）、中央停車場（東京駅丸の内駅舎、1914 年完成）等である。

長崎市 旧グラバー住宅

郡山市 開成館

松本市 旧開智学校

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	わが国の近代化の歩みを体感する旅①－２	場所	東京都台東区等

日本の近代化を象徴するものの一つに鉄道と建築がある。鉄道が導入されると大工の棟梁たちによる擬洋風建築が現れた。筆者が訪問した建物としては、旧グラバー住宅（1863 年完成）や開成館（1874 年完成）、旧開智学校（1876 年完成）等がある。

その後、工部大学校（現東京大学工学部）が 1877 年に開校すると、ジョサイア・コンドルの下で学んだ辰野金吾や曽禰達蔵、片山東熊らが新しい建築の担い手となり、ルネッサンス様式の建物が東京を中心に建設されていった。その頃の代表的な建物が日本銀行本店（1896 年完成）、赤坂離宮（1909 年完成）、中央停車場（東京駅丸の内駅舎、1914 年完成）等である。

東京都台東区　岩崎久弥茅町本邸（ジョサイア・コンドル設計）

東京都中央区　日本銀行本店（左）、大阪市　大阪市中央公会堂（右）※共に辰野金吾設計
※この2枚の写真は、2008 年度の「福岡市赤煉瓦文化館誕生 100 年祭実行委員会」より提供

東京都千代田区　中央停車場（東京駅丸の内駅舎）※辰野金吾設計

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	わが国の近代化の歩みを体感する旅②	場所	富岡市、宇城市等

日本の建築の近代化の歴史は、洋風建築の導入に関する歴史でもある。前に紹介した事例と建設時期は前後するものはあるが、筆者が訪問した建物の中で印象に残るものを紹介する。

富岡製糸場（1872 年完成）はお雇い外国人バスチャンによるもので、木骨レンガ造が特徴である。また、学生時代の研究のフィールドであった三角西港（1887 年完成）もお雇い外国人ムルドルの設計によるもので、港の整備と合わせて都市計画も行われ、洋風の建物も建設された。フランク・ロイド・ライトが設計した旧帝国ホテル（1923 年完成、1968 年解体、その後明治村に移転）も西洋建築と日本建築が融合した建物として筆者の好きな建物の一つである。

富岡市 富岡製糸場

宇城市 三角西港に残る洋風建築

犬山市 明治村に移転された旧帝国ホテル

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	今も息づく蔵を巡る旅①	場所	川越市、倉敷市等

日本の伝統的な建物に蔵がある。川越や倉敷、喜多方では土蔵、小樽では石蔵、富岡や函館、門司では煉瓦蔵の美しい建物が今なお多く残され、当初の用途を変えながらも現代的視点で活用されているものも多い。また、川越や倉敷、喜多方のように「蔵のまち」をPRし、観光交流エリアとして面的に活用している地域もあれば、鹿島のように蔵のネットワークを活かした「酒蔵ツーリズム」を展開している地域もある。そして、南島原市有家町のように地域の生業として多様な蔵が連携して「庄屋の町」を盛り上げている地域もある。

蔵の構造・用途、時代背景等を学びながら蔵の町並みを散策することも「生業を活かした地域づくり」の参考になる。

川越市　川越の土蔵の町並み（左）、倉敷市　倉敷川畔の土蔵の町並み（右）

小樽市　小樽運河沿いに並ぶ石蔵（左）、市内に点在する石蔵（右）

富岡市　上州富岡駅前の煉瓦蔵の富岡倉庫（左）、函館市　煉瓦造の倉庫群（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	今も息づく蔵を巡る旅②	場所	熊本市

様々な蔵がある中で生業が息づく身近な蔵を紹介する。まずは、熊本市小島（おしま）にある操業 1818 年の浜田醤油。江戸時代からそれぞれの時代を経て建てられた蔵では当時の面影を随所に残し、200 年の時が創造した蔵の息づかいを感じることができる（木桶、天井に昔の姿をそのまま残す滑車、煉瓦造りの受水槽、樹齢 400 年の守り樹クスノキ等）。

最近では隈研吾氏監修によるリノベーションも行われ、和小屋の姿をそのまま活かしたり、竹をやたら組みした廊下の天井等により歴史的建造物が見事に息を吹き返した。

熊本市 浜田醤油 外観（左）、天井に昔の姿をそのまま残す滑車（右）

浜田醤油 樹齢 400 年の守り樹クスノキと煉瓦造りの受水槽（左）、醤油造りに欠かせない木桶（右）

浜田醤油 竹をやたら組みした天井が続く廊下（左）、和小屋の姿をそのまま活かした2階のカフェ（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	今も息づく蔵を巡る旅③	場所	川越市、霧島市

操業 1764 年の川越市の松本醤油商店の天保蔵も 1830 年に建てられた建物で、川崎市の都市景観重要建築物に指定され、醤油作りの伝統を肌で感じることができる。熊本市の浜田醤油と同じように大きな木桶が並び、天井の構造をそのまま見ることができ、醤油の香り漂う空間となっている。

また、霧島市にある霧島町蒸留所（1911 年創業）は焼酎の製造を行っており、かめ壺焼酎の仕込みの過程を見学できる。蒸留所から高千穂峰を望むことができ、その高千穂峰から流れてくる清流・霧島川がすぐ近くにあるなど、恵まれた自然環境の中で焼酎が製造されていることがわかる。

川越市　松本醤油商店

霧島市　霧島町蒸留所（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	今も息づく蔵を巡る旅④	場所	熊本市、鹿島市

次に筆者が定期的に訪問している酒蔵を紹介する。熊本市川尻の「瑞應」は 1867 年創業で、清酒の他に焼酎、発酵調味料、赤酒等も製造販売し、特に東肥赤酒は有名である。2016 年の熊本地震で蔵の各所が被害を受けたが、それを乗り越え熊本の風土に合った地酒を作り続けている。

また、江戸時代から昭和初期にかけての古い建物が建ち並ぶ鹿島市の浜中町八本木宿地区には3つの酒蔵がある。毎年春と秋には市内の他の3つの酒蔵といっしょに「酒蔵ツーリズム」が開催され、多くの人々が訪れ、お酒が生まれた土地の食や文化、歴史を感じながら白壁の町並みを楽しんでいる。イベント空間として利用されている酒蔵もある。

熊本市川尻 瑞應の酒蔵

鹿島市 浜中町八本木宿の酒蔵

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	今も息づく蔵を巡る旅⑤	場所	伊万里市

今回の研究の終盤に伊万里市内にある老舗の酒造場を訪問する機会に恵まれた。山代町にある松浦一酒造は、1716 年創業で 300 年余以上にわたり、伊万里の気候・風土・人情に合った独特の味わいを求めてお酒を造り続けており、先人の技を伝承しながらも新たなチャレンジにも取り組んでいる。酒蔵には水神カッパのミイラの他、古い酒造道具や農機具等を展示している。

また、二里町にある古伊万里酒造は、1909 年創業で 100 年余にわたり佐賀県産米・有田白磁泉の名水を使い、昔ながらの寒造りで一つひとつの作業に手間をかけて丁寧にお酒を造り続けている。その中で、有田焼の伝統的な文様を施した古伊万里カップ酒「NOMANNE」は、地域らしさを象徴する商品であり、伊万里や有田のブランド化にも貢献していると思う。

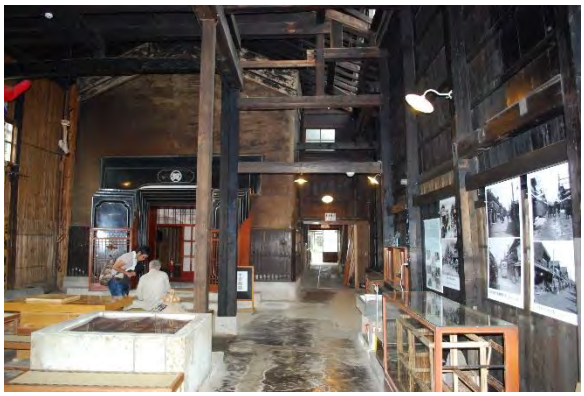
伊万里市山代町　松浦一酒造

伊万里市二里町　古伊万里酒造

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	今も息づく蔵を巡る旅⑥	場所	横手市

最後は秋田県横手市増田の内蔵である。内蔵は蔵を豪雪から守るため、全体を「鞘」と呼ばれる上屋建物ですっぽり覆った土蔵であるが、増田の内蔵は主屋の奥に建っており、道路からは見えず、ひっそりと佇んでいるのが特徴である。町割りは間口が5～7間（9～12.6m）、奥行きが 50～100 間（90～180m）と極端な短冊型となっており、その上に町家建築が建ち並び、伝統的な町並みが形成されている。道路側からは、2階の正面に梁首と呼ばれる梁組を見せているのが特徴で、職人技術の粋を垣間見ることができる。

明治前期から戦前にかけて建てられた短冊型の主屋が軒を連ねる景観は、当時の情緒を現在に留めており、主屋・内蔵・外蔵を「トオリ」と呼ばれる土間で結ぶ商家町家の特徴は、この地方独特のものとなっている。



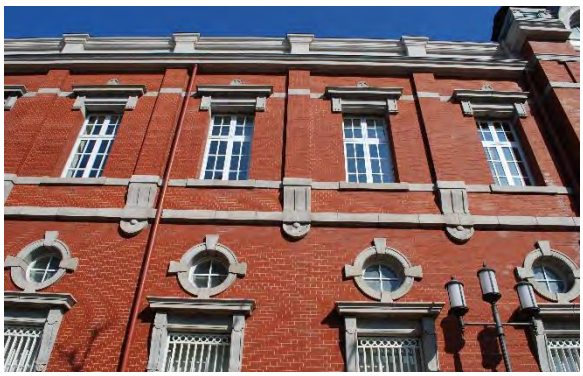
増田市横手　旧石平金物店
現在は増田町観光案内所兼物産販売所「蔵の駅」

増田市横手　筆者が訪問した内蔵
職人技術の粋を垣間見ることができる。

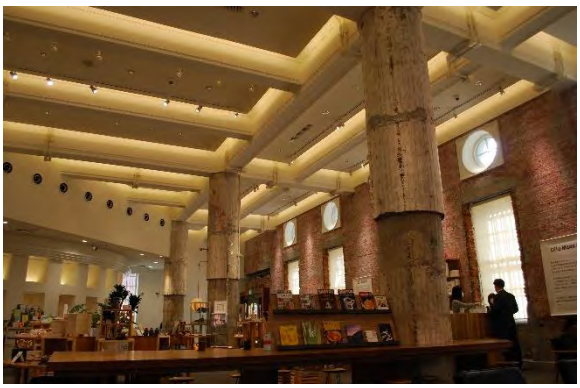
大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	時代を超えて使われ続ける建築を巡る旅①	場所	大分市

ここでは、明治から昭和にかけて建てられ、当初の役割を終え、新たな用途として使われ続けている建築物を紹介する。大分銀行赤レンガ館は、1913 年に旧第二十三国立銀行本店として辰野金吾氏の設計により建てられた。第二次世界大戦で空襲を受け、壁のみを残して焼失したが、戦後修復され 1966 年まで大分銀行本店として使用、その後、貸しホール等として使われ、2018 年にリニュアルオープンし、県産品を販売する地域商社「Oita Made」や地場のコーヒー専門店が入居している。

リニュアルにあたっては、1913 年竣工当時の赤レンガを内装に使用したり、1949 年の改築時に建てられたコンクリートの柱や化粧梁を修復再現した。大正、昭和、平成、令和の時代にわたり様々な使い方をされ、地域のシンボルとして愛され続けている建築である。



大分市 大分銀行赤レンガ館 外観



竣工時の赤レンガを内装に使用したり、改築時に建てられたコンクリートの柱や化粧梁を修復再現

1993 年の大分銀行創立 100 周年記念竣工時のプレート（左）や大理石の時計（右）を展示

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	時代を超えて使われ続ける建築を巡る旅②	場所	鹿児島市、北九州市

鹿児島市の仙厳園に隣接するスターバックス仙厳園店は、旧芹ヶ野島津家金山鉱業事業所（1904年建設）をリノベーションしたものである。旧建物のストーリーや歴史を尊重し、地域性を大切にしたデザイン（薩摩切子のカッティング形状、鹿児島県産の杉材の使用等）が時間（過去、現在）、空間（東洋、西洋）、技術（手仕事、工業）の融合を感じさせている。

また、スターバックス門司港駅店は、1914 年に創建され、2019 年に大正時代の姿に復原された門司港駅舎の1階（旧三等待合室）にある店舗である。ここでも門司港駅の歴史を尊重し、地域性を大切にしたデザイン（鉄道レールの再利用、福岡県産のセンダン材の使用、列車のヘッドマークを用いたスターバックス歴代のロゴマークの設置等）が時間と空間を感じさせている。

鹿児島市 スターバックス仙厳園店

北九州市 門司港駅（上）と1階に入居しているスターバックス門司港駅店（中、下）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	時代を超えて使われ続ける建築を巡る旅③	場所	大分市、鹿児島市

大分市アートプラザは、磯崎新氏の代表作である旧大分県立大分図書館（1966 年完成）をリノベーションしたもので、1998 年に開館。市民ギャラリーやアートホールの他、磯崎氏の建築作品の模型や資料を常設展示する磯崎新建築展示室も設けられている。2018 年 12 月には磯崎氏の大学時代の卒業制作のパネル展と講演会も行われた。

また、鹿児島市のマルヤガーデンズは、当初は 1961 年に丸屋デパートとして開業したもので、1984 年から 2009 年まで三越鹿児島店として使用。その後、大規模なリノベーションを行い、2010 年にマルヤガーデンズとしてオープンした。三越時代のデパートメントストアではなく、人、モノ、コトが有機的につながり合うユナイトメントストアを標榜しているのが特徴である。

大分市　大分市アートプラザ

鹿児島市　マルヤガーデンズ。壁面緑化や屋上緑化も特徴で、多様なテナントが入居しながらも全体としての一体感を感じさせる。

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	時代を超えて使われ続ける建築を巡る旅④	場所	東彼杵町

東彼杵町の千綿駅周辺では、I ターン者や U ターン者、地元の若手が「千綿を魅力ある地域にしたい」という想いで「まるごとエリアリノベーション」に取り組んでいる。その代表的なものが「Sorriso riso（ソリッソリッソ）千綿第三瀬戸米倉庫」である。以前は JA の米倉庫だったが、現在は地産のそのぎ茶を購入できる体験型のショップとカフェが併設されている。古い米倉庫をリノベーションした空間はおしゃれで心地よい空間を提供している。

すぐ近くには、同様に古い建物をリノベーションしたアンティークショップやパン屋、フランス料理店等があり、千綿駅内にある千綿食堂を含めてエリア全体として魅力ある空間となっている。わずか5年の間に約 20 店舗がオープンし、50 人近くが新規に移住しているとのことである。今後の展開が楽しみなエリアである。

東彼杵町　千綿駅兼千綿食堂（左）、Sorriso riso（ソリッソリッソ）千綿第三瀬戸米倉庫（右）

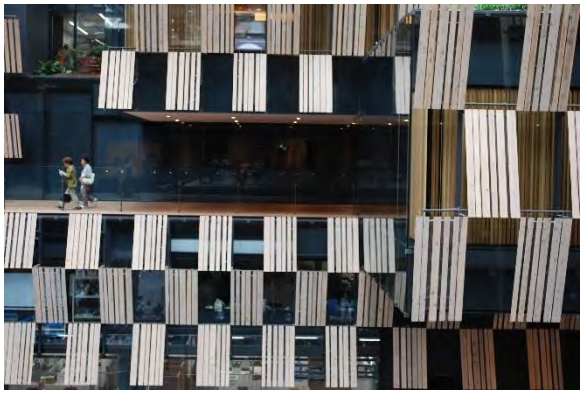
東彼杵町　Sorriso riso 千綿第三瀬戸米倉庫内のカフェ（左）とショップ（右）

東彼杵町　Sorriso riso 千綿第三瀬戸米倉庫のすぐ近くにあるアンティークショップ（左）とパン屋（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	現代建築を巡る旅①	場所	長岡市、富岡市

比較的新しい建物の中でも、筆者は地域性（気候、景観、材料等）や地域との関わり、地域内の回遊性を尊重した建物に興味がある。建物単体で魅力的なものもあるが、地域や社会に対する提案等が盛り込まれた建物により興味があり、機会を見つけて訪問するようにしている。

特に隈研吾氏設計の建物を見に行く機会が多く、その中でも長岡市の「シティホールプラザ アオーレ長岡」や富岡市の「富岡市役所新庁舎」は、地域全体の中での回遊動線を考慮して建物が設計され、地域や社会に対する様々な提案が盛り込まれており、印象に残っている。



長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡。市庁舎を含む複合施設で、地域に開かれた開放的な空間が特徴で様々なイベントで活用されている。

富岡市 富岡市役所新庁舎。上州富岡駅と富岡製糸場の間に位置し、回遊動線の強化も図られている。

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	現代建築を巡る旅②	場所	由布市、長崎市等

隈研吾氏設計の建物は九州にも多くあり、筆者がよく訪問するのが「COMICO ART MUSEUM YUFUIN」であり、由布院の景観に溶け込みながらも個性と存在感を漂わせている。遠くから見ると漆黒に見える焼杉の外壁は、周囲の景色をくっきりと浮き上がらせて、その価値を引き立てているが、近寄って見ると木の温もりや風情を感じさせる。分節された小さな屋根の連なりは、小さな家々が集まって成り立つ由布院の景観と調和して、一体化しながら個性を漂わせている。

また、「長崎県立美術館」「スターバックス太宰府天満宮表参道店」「浜田醤油」も地域性が強く感じられる建物で、筆者がよく訪れる建物である。

由布市 COMICO ART MUSEUM YUFUIN

長崎市 長崎県立美術館（上）、太宰府市 スターバックス太宰府天満宮表参道店（中）、熊本市 浜田醤油（下）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	現代建築を巡る旅③	場所	東京都渋谷区

新しい建物を見に行く時には、まちづくりの視点や地域社会の中での役割を含めて訪問するようにしている。表参道ヒルズは同潤会アパートメントの建替え、再開発によって建設されたもので、新しいまちに生まれ変わった。同潤会アパートメント時代から現在に至る過程の中でまちの歴史やストーリーを振り返りながら建物を見て回ることも楽しい。

また、古くからの歴史と豊かな緑が残る代官山では、「ヒルサイドテラス」が上質な空間と歴史を継承して文化を育んできており、それが「T-SITE」にも受け継がれ、緑の木立の中に大小の建物が佇む設計で、代官山らしい魅力的な商業空間となっている。

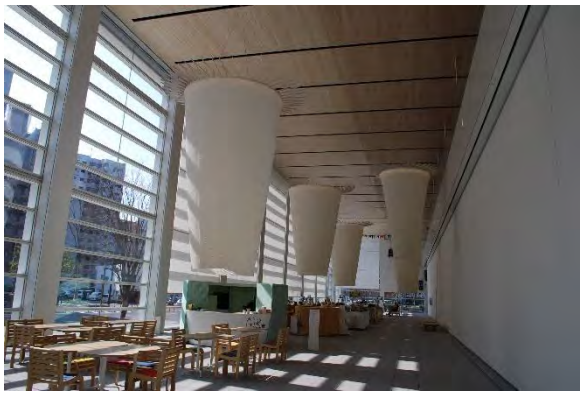
渋谷区表参道　紅葉の頃のケヤキ並木（上）、
2006 年に開業した表参道ヒルズ（中）、
忠実に再現された表参道ヒルズ同潤館（下）

渋谷区代官山　重要文化財の旧朝倉家住宅の
庭園（上）、1967 年から整備が進められた代官山
ヒルサイドテラス（中）、2011 年に完成した代官山
T-SITE（下）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	現代建築を巡る旅④	場所	大分市等

有名建築家設計による美術館巡りも楽しい。「大分県立美術館」（坂茂氏設計）は開放的な展示空間やアトリウムが特徴で、美術館に行かない人でも関心を高める機会を提供するとともに、日常的に人々が集まる‘まちに開かれた空間’となっている。大分県産材の木材を建築に使っているのも特徴である。

また、美術館の歴史と作品の特性に合わせて和の設計が施された「根津美術館」（隈研吾氏設計）や、近代的ながらも下町に溶け込むデザインと地域に開かれた空間が特徴の「すみだ北斎美術館」（妹島和世氏設計）も印象に残っている。



大分市　大分県立美術館

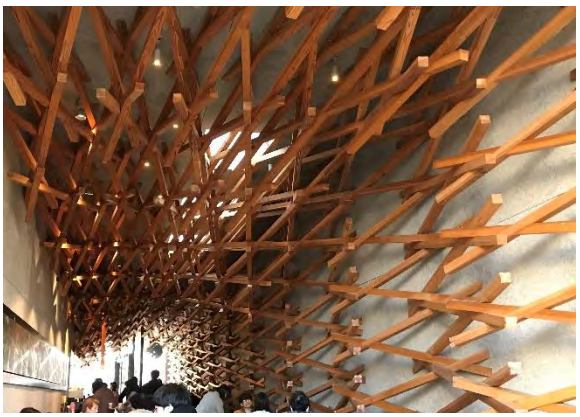
東京都港区　根津美術館（左）、東京都墨田区　すみだ北斎美術館（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	スターバックス建築を巡る旅	場所	川越市、太宰府市等

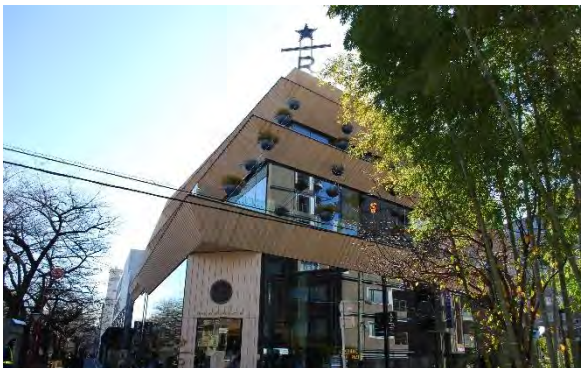
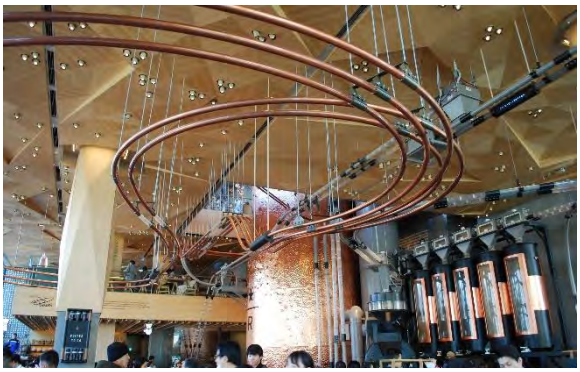
スターバックス仙厳園店、門司港駅店については前に紹介したが、スターバックス建築の中でも特に地域性が感じられるものを紹介する。川越鐘つき通り店は伝統的な蔵造りの町並みが残るエリアにあり、町並みへ配慮されたデザインが特徴である。内部も地域の歴史を尊重した材料や色彩を採用している。また、太宰府天満宮表参道店は「自然素材による伝統と現在の融合」というコンセプトのもとに設計され、伝統的な木組み構造を用いたデザインが特徴である。

中目黒にあるリザーブロースタリー東京は日本初のリザーブロースタリーで、世界で5番目の進出である。目黒川沿いに位置し、桜並木を尊重したデザインを取り入れており、ロースタリーの独自性と日本の感性を活かしたデザインとなっている。

川越市　スターバックス川越鐘つき通り店



太宰府市　スターバックス太宰府天満宮表参道店

東京都目黒区　スターバックスリザーブロースタリー東京

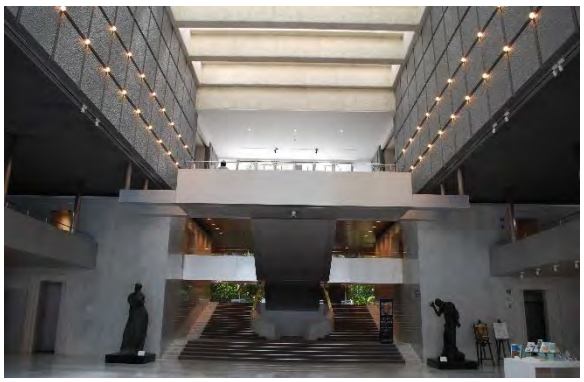
大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	思い出の建築を巡る旅①	場所	北九州市、大分市

筆者が本格的に建築の見学に行き始めたのは大学に入学した時からである。当時の九州には著名な建築家（磯崎新氏、黒川紀章氏、白井晟一氏等）の作品が多く、当時の新聞にも「九州は現代建築の宝庫」と掲載されていた。関東や関西の学生たちも九州の建築巡りをしていたが、筆者も磯崎新氏の作品を中心に見学に出かけた。

その後、東京勤務時代に訪れているものもあるが、約 30 年振りに北九州市立中央図書館、北九州市立美術館、大分県立大分図書館、群馬県立近代美術館を訪問した（2017 年1月～現在）。筆者にとっては、これこそ建築の原点に返る旅である。

※北九州市立中央図書館については次ページのコラムに掲載

北九州市　北九州市立中央図書館（現北九州市立図書館、北九州市立文学館）



北九州市　北九州市立美術館

大分市　大分県立大分図書館（現大分市アートプラザ）

【参考】北九州市立中央図書館再訪

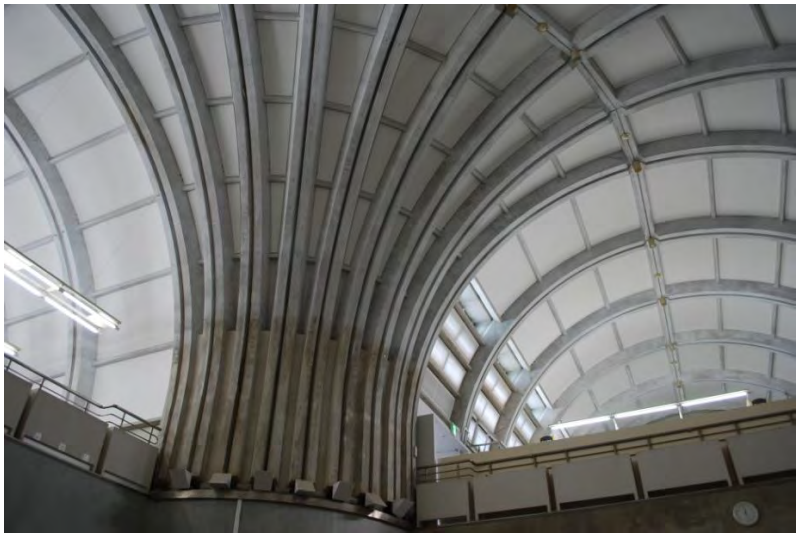
（2017 年 12 月までに執筆したコラムより）

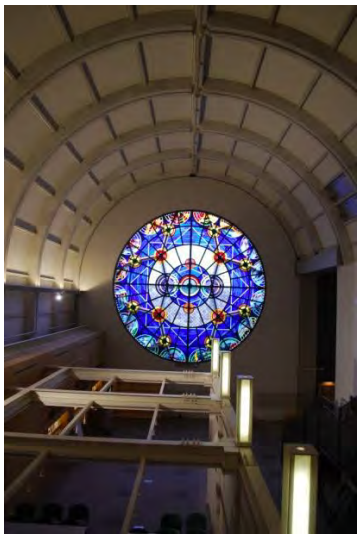
大学に入り、建築を志した時に磯崎新氏が設計した建築巡りを始めた。北九州市立中央図書館は、その中でも群馬県立近代美術館と並んで筆者の印象に残る作品である。大学時代と社会人時代に数度訪れているが、今回は約 30 年振りの訪問となった（2017 年 1 月 20 日）。

リブヴォールトの空間が新鮮さと懐かしさを感じさせる。築 40 年以上経っているが、改修を続けながら大切に使われている。ガラス張りのスロープからは小倉城や北九州市役所、リバーウォーク北九州などを見ることができる。また、スロープに沿って閲覧室が分節配置され、各自が好きな居場所を確保することができる。落ち着いて本を読める空間でありながら、吹き抜けのヴォールト天井によって空間の連続性も感じることができる。レストランのガラスのモンローカーブが懐かしい。

2012 年に映画「図書館戦争」のロケが行われたこともあり、この日も図書館関係者や文学関係者など多くの団体が視察に訪れていた。併設されていた北九州市立歴史博物館が「いのちのたび博物館」に統合されたこともあり、2006 年から一部は北九州市立文学館として使われている。文学館にあるステンドグラスも久し振りに見ることができた。

なお、この建物は筆者が福岡市住宅供給公社時代にクリスタージュの設計でお世話になった三浦紀之氏が磯崎新アトリエ時代に担当されていた。これも何かの縁であろう。いつまでも大切に使われ続けてほしい建物である。



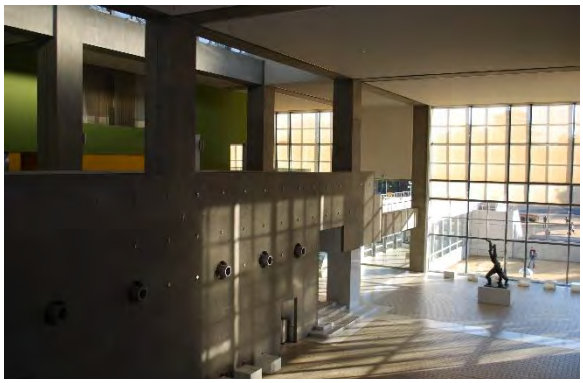
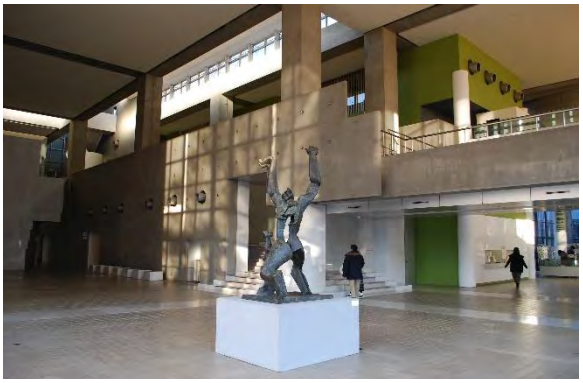


大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	思い出の建築を巡る旅②	場所	高崎市

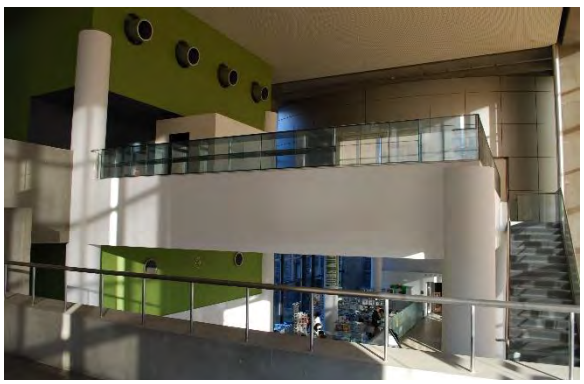
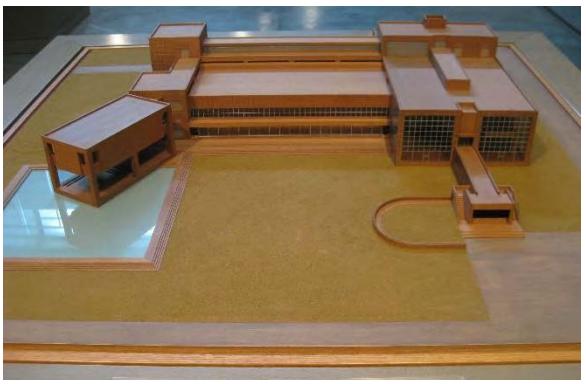
磯崎氏の代表作のひとつである群馬県立近代美術館については、大学時代～東京勤務時代に3回訪問していたが、2019 年1月に約 30 年振りに訪問する機会に恵まれた。12mグリッドの立方体をベースに構成され、外壁のアルミパネルも 1.2mのグリッドになっている。エントランス廻りもグリッドが使われており、四角のフレームが基本となって空間構成が行われている。フレームの中のフレームが印象的な建物である。

2時間程度の滞在であったが、太陽の光の方向により外壁のアルミパネルが微妙に変化する姿も見ることができた。竣工から 45 年以上経過しているが、古さをほとんど感じさせない建築である。いつまでも大事に使われ続けてほしい。

高崎市 群馬県立近代美術館の外観

群馬県立近代美術館 エントランスホール付近

群馬県立近代美術館エントランスホール付近（左）
大分市 大分市アートプラザに展示されている群馬県立近代美術館の模型（右）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	思い出の建築を巡る旅③	場所	熊本市

筆者は大学3年生頃になると歴史的建造物にも興味を持ち始めた。熊本市内には多くの歴史的建造物が大切に残されていたが、その中でも印象に残っている建物が新町の吉田松花堂と長崎次郎書店である。筆者は熊本地震前の 2015 年5月に新町を訪問し、長崎次郎書店の2階の喫茶店も訪ねている。それから約1年後の熊本地震では吉田松花堂の建物は大きな被害を受けたが、粘り強く改修を行い現在に至っている。

筆者は「熊本の復興の過程を巡る旅」も続けているが、歴史と伝統のある建物を後世に残していこうとする姿は頭が下がる思いである。長崎次郎書店にも定期的に訪問し、熊本ならではの書籍や喫茶店でのお薦めの水出しコーヒーを楽しんでいる。

熊本市 吉田松花堂（熊本地震後の 2016 年 12 月）

熊本市 現在の吉田松花堂

熊本市 長崎次郎書店

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	思い出の建築を巡る旅④	場所	宇城市、阿蘇市

大学の卒業研究のフィールドであった「三角西港」と、建築を志した時に感銘を受けた「孤風院」という洋風建築も思い出の場所である。近代国家の威信を懸けた明治三大築港の一つである三角西港は、港としての機能が三角港（東港）に移った後は寂しい漁村の雰囲気を漂わせていたが、1987 年の築港 100 周年を機に、当時の建築物の復元や周辺の公園整備も行われ、観光地としても賑わいを見せていた。

また、孤風院は大学の講堂としての役割を終えた建築物を当時熊本大学助教授であった木島安史先生が自ら買い取り、改修し、住居として蘇らせ、明治～大正～昭和～平成～令和の5つの時代にわたり活用されていった。私は熊本地震後に孤風院を訪問したが、木島先生の想いを受け継いだ建築物を訪問することで、建築への想いを新たにした。

宇城市　三角西港（左）、復元された小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）ゆかりの旅館・浦島屋（右）

宇城市　三角西港　倉庫を改修したレストラン・西港明治館（左）、旧宇土郡役所の九州海技学院（右）

阿蘇市　熊本地震後の孤風院

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	思い出の建築を巡る旅⑤	場所	東京都千代田区

1980 年に社会人になって新しいカメラを購入し、関東を中心とした現代建築や歴史的町並み、関西を中心とした古建築や庭園等を見て回り、今でも印象に残っているものが多い。

その中でも筆者が何回も見てきたのは東京駅である。今でこそ東京のシンボルとなっているが（もちろん竣工した当時もそうであったが）、筆者が東京にいた頃（1980 年～1986 年）はそんなに大事にされているという印象はなかった。赤煉瓦駅舎の保存運動が起こったのは、筆者が東京を離れた頃であろうか。その後、2003 年に国の重要文化財に指定、2007 年から復原工事が行われ、創建時の意匠も忠実に再現された。

また、筆者は 2008 年度に「福岡市赤煉瓦文化館誕生 100 年祭」の実行委員会のメンバーとしても活動し、改めて辰野建築を振り返るいい機会となった。

東京都千代田区 1980 年頃の東京駅丸の内駅舎

現在の東京駅丸の内駅舎（2014 年6月撮影）

大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	思い出の建築を巡る旅⑥	場所	豊後高田市

この他、高校の時に訪ねた国東半島の富貴寺も大変印象に残っており、新緑や紅葉の時期に再訪している。富貴寺の大堂は九州最古の木造建築とされ（平安時代後期建立）、屋根は宝形造の行基葺という珍しい形式で、軒下の垂木が二重になっているのが特徴で、国宝にふさわしい重厚さとともに優美な雰囲気が伝わってくる。

なお、Part.1 で紹介した筆者の思い出の建築である京都の桂離宮、奈良の薬師寺、明治村の旧帝国ホテル、海外ではベネチアやフィレンツェの歴史的建造物等を再訪できていないが、近い将来訪問し、当時訪問した時の初心に帰るとともに、筆者の今後の活動に活かしていきたいと考えている。

豊後高田市 富貴寺大堂 紅葉の頃の外観

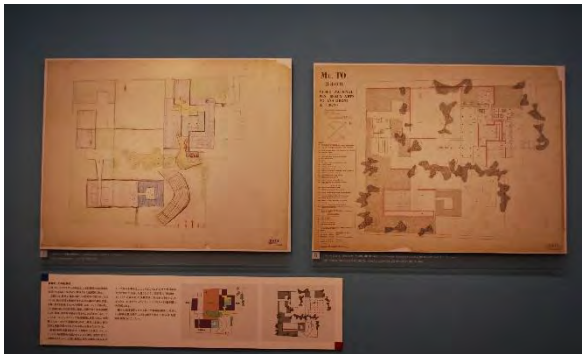
富貴寺大堂 宝形造で行基葺の屋根

富貴寺大堂 軒下の二重繁垂木も特徴

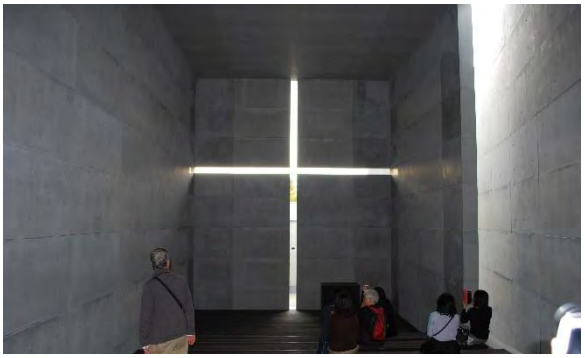
大テーマ	歴史的建造物、現代建築		
テーマ	建築展を巡る旅	場所	東京都、福岡市等

建築展を巡る旅は、「地域づくりや建築の原点に返る旅」を進めている筆者にとって、大変刺激的なものであり、社会人になって忘れかけていた「建築への想い」を新たにするものである。例えば、「日本の家　－1945 年以降の建築と暮らし－」では、筆者が大学時代に学んだ多くの作品の図面や模型を目の当たりにし、住宅設計の楽しさと面白さを改めて感じたところである。また、「安藤忠雄展－挑戦－」では、展覧会場を巡りながら安藤氏の歩んできた道程はもちろん、建築という文化の豊かさや建築の無限の可能性を感じることができた。

※「建築の原点に返る展覧会」については、次ページのコラムに掲載



「日本の家　－1945 年以降の建築と暮らし－」（左）
「ル・コルビュジェの芸術空間　－国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡－」（右）



「アジール・フロッタン再生展　－浮かぶ避難船　ル・コルビュジェが見た争乱・難民・抵抗から－」（左）
「安藤忠雄展　－挑戦－」（右）

田根剛「未来の記憶」展（左）、「磯崎新の謎」展（左）

【参考】建築の原点に返る展覧会

（2017 年 12 月までに執筆したコラムより）

2017 年８月～11 月にかけて東京に行く機会を利用して次の４つの建築展を見てきた。

Ａ展：日本の家 －1945 年以降の建築と暮らし－

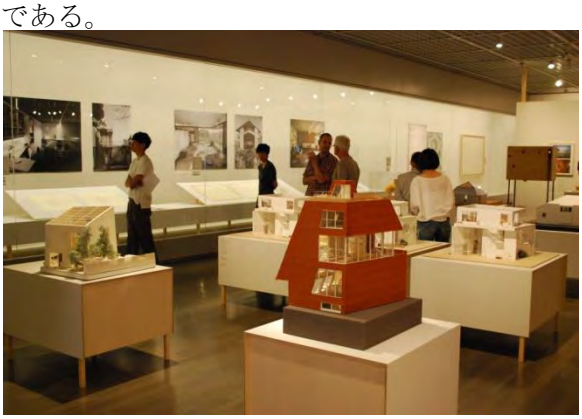
Ｂ展：ル・コルビュジェの芸術空間 －国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡－

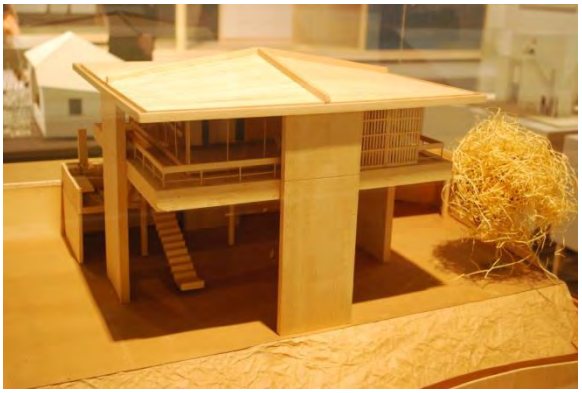
Ｃ展：アジール・フロッタン再生展

－浮かぶ避難船 ル・コルビュジェが見た争乱・難民・抵抗から－

Ｄ展：安藤忠雄展 －挑戦－

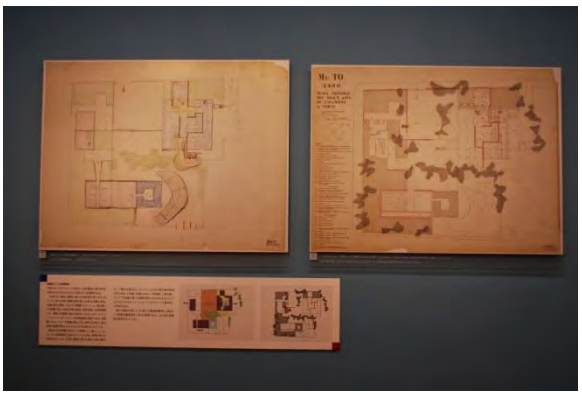
Ａ展は、日本の建築家が設計した 1945 年以降の戸建住宅を紹介するもので、ローマとロンドンで開催された後に、東京国立近代美術館で巡回展示されたものである。丹下健三氏の「自邸」、清家清氏の「斎藤助教授の家」、篠原一男氏の「白の家」、東孝光氏の「塔の家」、白井晟一氏の「呉羽の舎」、黒川紀章氏の「中銀カプセルタワービル」など、筆者が大学時代に学んだ多くの作品の図面や模型を目の当たりにし、住宅設計の楽しさと面白さを改めて感じたところである。





日本の家 －1945 年以降の建築と暮らし－

Ｂ展は、2016 年に世界文化遺産に登録された国立西洋美術館の本館を取り上げ、ル・コルビュジェがその設計の過程で描いた習作図面をもとにコルビュジェの本館構想のプロセスを紹介するものである。コルビュジェが提案した「ピロティ」「屋上庭園」「自由な平面」「水平連続窓」「自由なファサード」という近代建築の５原則や、所蔵品の増加とともに展示室を増築していくことを基本理念とするプロトタイプ「無限成長美術館」の考え方に触れることができた。



ル･コルビュジェの芸術空間 －国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡－

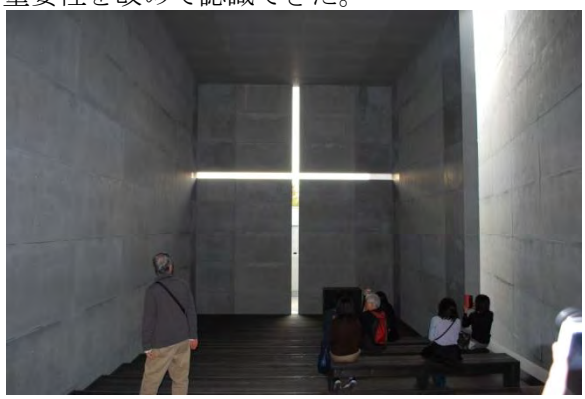
（次ページに続く）

Ｃ展の主役である「アジール・フロッタン（浮かぶ避難所）」は、コルビュジェの知られざるプロジェクトであり、パリのセーヌ川（ノートルダム大聖堂から約１km の上流）に浮かんでいる。世界救世軍の依頼により設計し、船を改造したもので、第一次世界大戦の混乱によって生じた女性の難民を収容すべく、1929 年に完成したものである。もともとは石炭を運ぶコンクリート造の船だったが、箱型の船体に柱と屋根・水平窓を増築し、建築としてリノベーションされた。その後、老朽化により建築としての機能を失っていたが、2005 年から修復工事が施され、2018 年からギャラリー機能を持った建築として再生されることになっている。

この新しい船出を祝して、完成当時の資料、設計のスタディ、現在の写真・映像、模型等により紹介されたものである。ここでも、コルビュジェが提唱する近代建築の５原則が貫かれている。パリに行く機会を設けて、ぜひ実物を見てみたいものだ。

アジール･フロッタン再生展　－浮かぶ避難船　ル･コルビュジェが見た争乱･難民･抵抗から－

Ｄ展は、建築家・安藤忠雄氏の半世紀に及ぶ設計活動の軌跡と未来への展望を「原点／住まい」「光」「余白の空間」「場所を読む」「あるものを生かしてないものをつくる」「育てる」という６つのセクションに分けて紹介したものである。建築の設計だけでなく、環境再生や震災復興といった社会活動にも果敢に取り組まれており、展覧会場を巡りながら安藤氏の歩んできた道程はもちろん、建築という文化の豊かさ、建築の無限の可能性を感じることができた。その中でも、「場所性」「新旧の対話」というキーワードは筆者が常々考えていることであり、その重要性を改めて認識できた。



安藤忠雄展　－挑戦－

４つの展覧会は、「地域づくりや建築の原点に返る旅」を進めている筆者にとって、大変刺激的なものであり、タイムリーなものであった。社会人になって忘れかけていた「建築への想い」を新たにしたところであり、今後の人生を考える上で大いに参考にしていきたい。

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的建造物と桜巡りの旅①	場所	朝倉市、熊本市

四季があるのが日本の気候の特徴であり、それが美しい風景となって季節感を演出する。なかでも桜や新緑、紅葉の時期は美しい花や眩い葉、赤色や黄色に染まる葉が彩を添える。

九州では3月下旬から4月上旬にかけて一斉に桜が開花し、この時期の筆者のまち旅のテーマは「桜巡りの旅」に絞られる。特に伝統的町並みや城郭、寺院、神社等の歴史的建造物と桜が見事に調和した風景は、多くの人々に感動を与えている。筆者がこの時期によく訪問するのが、桜並木が続く秋月城址周辺、お城や石垣を背景とした桜が美しい熊本城、水面や築山と調和した桜が美しい水前寺成就園である。

朝倉市 秋月城址周辺

熊本市 熊本城

熊本市 水前寺成就園

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的建造物と桜巡りの旅②	場所	福岡市、太宰府市等

石垣やお堀を背景とした桜が美しい福岡城址、山門や六角堂を背景とした東長寺の夫婦枝垂れ桜、階段状の参道に沿って立体的に桜が続く宝満宮竈門神社、権現川沿いの桜が石垣と調和した伊万里の大川内山、ソメイヨシノだけでなくオオムラザクラ、クシマザクラ等の遅咲きの桜により長い期間にわたって桜が楽しめる大村公園も、筆者がよく訪問する桜の名所である。

これらは四季それぞれに魅力がある場所であるが、特に桜の時期は城址や寺社等の歴史的空間と一体となって、美しさと日本の情緒を醸し出している。

福岡市　福岡城址（左）、東長寺（右）

太宰府市　宝満宮竈門神社（左）、伊万里市　大川内山（右）

大村市　大村公園　ソメイヨシノ（左）、オオシマザクラ（右）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的建造物と桜巡りの旅③	場所	福岡市

筆者が暮らす身近な姪浜周辺にも桜の名所がいくつもある。筆者が姪浜で活動をしていた頃は「歴史的建造物と桜巡り」と銘打って毎年のようにまち歩きを実施し、多くの来訪者に喜んでいただいた。普段何気なく過ごしている場所でも桜の時期はその魅力が倍増して「桜の名所」となり、地域資源を見直すきっかけとなったりする。

こうした視点で改めて地域資源を発掘していくことも、「身近な魅力資源を活かしたまちづくり」を進めていく上で大切である。

福岡市　姪浜周辺の桜の名所（※枝の剪定により環境が変わっている場所もある）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	桜巡りの旅①	場所	熊本市、朝倉市等

桜をテーマとした旅は「歴史的建造物と桜巡り」に限らない。筆者は並木を構成する桜から美しさだけでなく、組織のあり方を感じている。例えは、熊本市健軍の自衛隊通りの桜や朝倉市秋月の杉の馬場の桜は、一本一本の形は決して綺麗ではないが、よく見ると、人の人生と同じようにこれまでの桜の歴史を感じ取ることができる。それは、人の生き様と同様に桜の生き様である。

また、一本一本の桜の幹や枝の形は様々であるが、それが並木となると美しい景観を形成する。それは、「多様性の中の統一」という表現がピッタリであり、異なる性格や考え等を持つ多様な個人により構成される人間社会のあり方をも考えさせるものだと感じている。職場や学校、地域団体等の様々な組織において、応用できるのではないだろうか。

熊本市 健軍自衛隊通りの桜並木

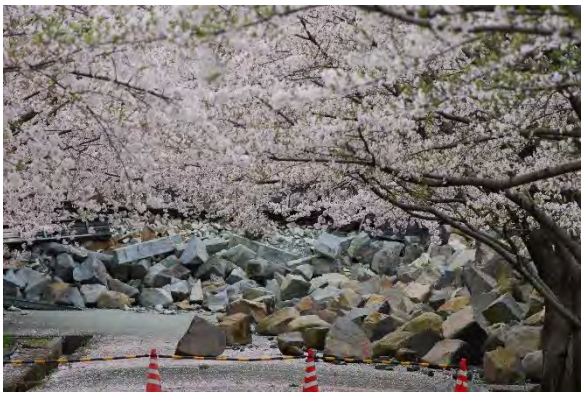
朝倉市 秋月杉の馬場の桜並木

筑前町 草場川の桜並木

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	桜巡りの旅②	場所	熊本市、南阿蘇村

筆者には忘れられない桜が2つある。熊本城の桜と南阿蘇村の一心行の桜である。両桜とも熊本地震前の 2016 年4月2日に訪問したばかりで、同月の 14 日と 16 日に震度7の地震で熊本市や南阿蘇村は甚大な被害を受け、様変わりしてしまった。それから1年後に熊本城の満開の桜を見に訪れたが、石垣と桜の美しさは熊本だけでなく、日本の誇りだと改めて感じた。多くの市民や観光客も訪れ、賑わいを見せており、復興の足音を強く感じた。

また、一心行の桜も地震前と同じように咲き誇り、黄色の菜の花や青い空とのコントラストが鮮やかであり、多くの来訪者で賑わっていた。熊本城や一心行の桜を巡る旅は、まさしく熊本の復興の過程を巡る旅であり、感動の旅である。そして、それが筆者流の熊本復興への支援である。



熊本市　熊本城の桜
（熊本地震から1年後の 2017 年4月）

南阿蘇村　一心行の桜
（熊本地震から1年後の 2017 年4月）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	桜巡りの旅③	場所	伊万里市

次は鉄道のローカル線の桜である。ここ数年は仕事の関係で1～2両編成のローカル線に乗る機会が多く、いろいろな駅で桜を目にすることが多い。なかでも印象的なのが松浦鉄道である。松浦鉄道では多くの駅で桜を植えており、桜の咲く頃になると浦ノ崎駅や吉井駅、久原駅は多くの来訪者で賑わっている。特に浦ノ崎駅は「桜の駅」とも呼ばれ、美しい桜並木を形成している。

一つひとつの駅は点であるが、松浦鉄道沿線を一つのエリアと考えれば、桜をテーマにしたネットワークも可能となり、「桜の鉄道」として県域や市町村域を超えた広域連携による地域づくりが可能になるのではないかと筆者は考えている。桜はそうしたヒントを与えてくれている。

伊万里市　松浦鉄道　浦ノ崎駅の桜

伊万里市　松浦鉄道沿線の桜（久原駅等）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	桜巡りの旅④	場所	福岡市

普段は周辺の風景に埋没して目立たない桜であるが、花の咲く時期は一躍スターとなり、日本全国で桜の見ごろの時期が話題となる。まちを歩くとこんな所に桜の木があったのかと思うこともよくある。建物の建て替え等に合わせて伐採されていく桜が多い中で、ポツンと残っている美しい桜を見ると心が和むものである。それらは「残した桜、残った桜」という表現がピッタリである。

また、市民団体の環境保全活動により森の中に埋もれていた桜が見事に再生されている場所もある。残した桜も再生された桜も魅力的な地域資源の一つであり、地域の中で誇りと愛着をもって見守ってほしいものである。

福岡市内で出会った「残した桜、残った桜」

福岡市　愛宕山　市民団体の環境保全活動により再生された桜の森

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	桜巡りの旅⑤	場所	福岡市

「残した桜、残った桜」は筆者の住む姪浜周辺にもたくさん見かけることができる。花の咲く頃でないと目立たない存在であるが、それぞれの桜の木にそれぞれの歴史があることは容易に想像できる。そうしたことを考えながら、まちを歩くことも楽しいものである。

また、市民や企業の厚意によって植えられた桜も、時間が経過し木々が成長することで、「地域の桜の名所」になりつつある場所もある。姪浜周辺にはいろいろな桜が存在し、それらを巡る旅も筆者の「小さなまち旅」のテーマの一つである。さらに、能古島まで足を運ぶと、より広域的なエリアで桜の旅を楽しむことができる。春の博多湾姪浜エリアは「桜の回遊路（海遊路）」でもある。

福岡市姪浜周辺の「残した桜、残った桜」

福岡市姪浜周辺の「市民や企業の厚意により植えられた桜」

福岡市　能古島アイランドパーク「海と桜が楽しめる桜」

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的建造物と紅葉巡りの旅①	場所	朝倉市、豊後高田市等

桜の時期と同様に四季を感じるのが紅葉の時期であり、赤色や黄色に染まる葉が彩を添える。九州では 11 月中旬から 12 月上旬にかけて紅葉の見ごろの場所が多く、この時期の筆者のまち旅のテーマは「紅葉巡りの旅」に絞られる。特に城郭、寺院、神社等の歴史的建造物と紅葉が見事に調和した風景は、多くの人々に感動を与えている。

筆者がこの時期によく訪問するのが、黒門を背景にカエデの赤色や黄色のグラデーションが美しい秋月城址、重厚で優美な木造建築物とモミジの赤色とイチョウの黄色のコントラストが印象的な富貴寺、樹齢 400 年の大カエデの紅葉が見事な雷山千如寺大悲王院である。

朝倉市 秋月城址

豊後高田市 富貴寺

糸島市 雷山千如寺大悲王院

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的建造物と紅葉巡りの旅②	場所	熊本市、太宰府市等

お城や石垣を背景とした紅葉が美しい熊本城、水面や築山と調和した紅葉が美しい水前寺公園、階段状の参道に沿って立体的に紅葉したカエデが続く宝満宮竈門神社も、筆者がよく訪問する紅葉の名所である。これらは桜の時期と同様に城郭や寺社等の歴史的空間と一体となって美しさと日本の情緒を醸し出している。

また、小樽や函館では歴史的建造物に蔦を這わす景観をよく見かけるが、紅葉の時期は赤色や黄色、緑色のコントラストが鮮やかである。

熊本市　熊本城

熊本市　水前寺成就園（左）、太宰府市　宝満宮竈門神社（右）

歴史的建造物に這わせた蔦の紅葉：小樽市の事例（左）、函館市の事例（右）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的建造物と紅葉巡りの旅③	場所	福岡市

筆者が暮らす身近な姪浜周辺にも紅葉の名所がいくつもある。筆者が姪浜で活動をしていた頃は「歴史的建造物と紅葉巡り」と銘打って毎年のようにまち歩きを実施し、多くの来訪者に喜んでいただいた。桜と同様、普段何気なく過ごしている場所でも紅葉の時期はその魅力が倍増して「紅葉の名所」となり、地域資源を見直すきっかけとなったりする。

こうした視点で改めて地域資源を発掘していくことも、「身近な魅力資源を活かしたまちづくり」を進めていく上で大切である。

福岡市姪浜　モミジの紅葉が美しい興徳寺

福岡市姪浜　姪浜住吉神社（左）に代表される寺社のイチョウの紅葉も姪浜の特徴

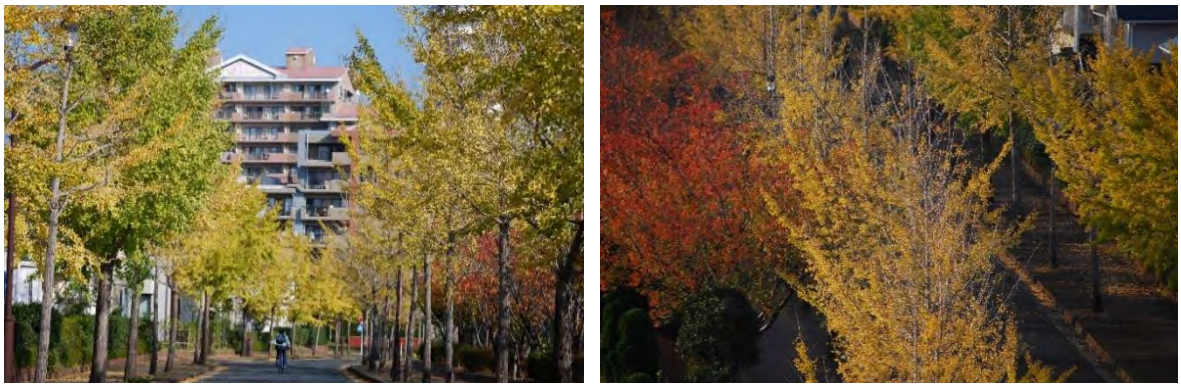
福岡市愛宕　愛宕神社参道に展開する桜の紅葉（左）、桜の紅葉も美しい観音寺（右）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	紅葉巡りの旅①	場所	福岡市

紅葉をテーマとした旅は「歴史的建造物と桜巡り」に限らない。筆者は並木を構成するケヤキやイチョウから美しさだけでなく、組織のあり方を感じている。紅葉の名所だけでなく、毎年 11 月になると、筆者の自宅近くのケヤキ並木やイチョウ並木も紅葉し、紅葉の具合により様々な色のグラデーションを感じることができる。桜と同様にこれらの紅葉からも「多様性の中の統一」「組織運営（多様な個人と組織）」を感じることができるのである。

人間社会も身近な自然界から学ぶことがたくさんあるのではないだろうか。桜や紅葉の事例は、ほんの一部に過ぎないのであり、参考になる事例は身近に多く存在するのである。

福岡市愛宕浜　ケヤキの紅葉のグラデーション



福岡市愛宕浜　イチョウと桜の紅葉のグラデーション

福岡市百道浜　ナンキンハゼとアメリカフウの紅葉のグラデーション

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	紅葉巡りの旅②	場所	唐津市、広川町

個人の強い意志によって植えられたモミジやイチョウが成長し「紅葉の名所」になっている場所もある。唐津市の環境芸術の森は鶴田正明さん夫妻が息子さんの死をきっかけに「昔の森を取り戻す 昔の川を取り戻す 昔の海を取り戻す」という想いを胸に 40 年以上の歳月をかけて植栽を続け、今では1万本を超えるモミジやカエデが訪れる人を幻想的な空間へ誘っている。

また、広川町の太原(たいばる)のイチョウ並木は農業を営む丸山元運(もとゆき)さんが 23 年前に奥様が亡くなられた後に、長年ブドウ栽培で使っていた畑の一部をイチョウに植え替えた場所である。植えた当初は低い苗木だったが今では7～8mまで成長し、約 80 本の並木として、今では多くの人々が訪れる「紅葉の名所」となっている。奥様が亡くなられる直前まで2人で紅葉狩りに行くのを楽しみにしていたとのことで、丸山さんと亡き奥様の想いが込められている。

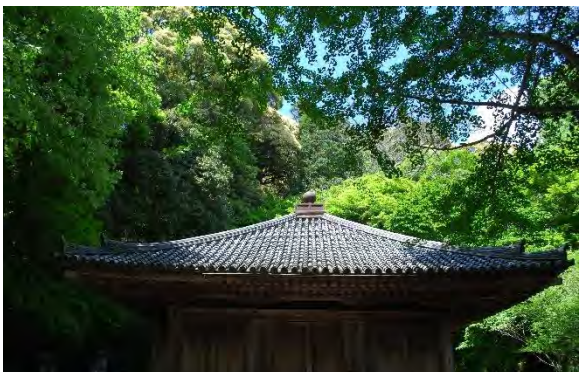
唐津市 環境芸術の森

広川町 太原(たいばる)のイチョウ並木

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	四季を実感する旅①	場所	豊後高田市、糸島市等

桜や紅葉の時期だけでなく、新緑の頃も四季を実感できる。4月～5月にかけてイチョウ、モミジ、クスノキ等の新緑が眩く、この時期のまち歩きも楽しいものである。筆者も福岡市内の身近な寺社だけでなく、旅先での寺社の新緑を楽しんでいる。

特に印象に残っているのが、紅葉の名所となっている豊後高田市の富貴寺のモミジやイチョウの新緑、糸島市の雷山千如寺大悲王院の大カエデの新緑である。紅葉の頃はことさらに美しいが、若葉が芽生える初夏も初々しいものである。また、諫早市の諫早神社や大木町の天満神社のクス群の新緑も自然光に映えて眩いものである。



豊後高田市　富貴寺のモミジやイチョウの新緑

糸島市　雷山千如寺大悲王院の大楓の新緑（左）、雷神社のイチョウやモミジの新緑（右）

諫早市　諫早神社のクス群の新緑（左）、大木町　天満神社のクス群の新緑（右）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	四季を実感する旅②	場所	福岡市

自宅近くや勤務先近くにケヤキ並木やイチョウ並木があり、四季の変化を実感でき、新緑⇒深緑⇒紅葉⇒落葉⇒新緑のサイクルにより季節感を身近に感じている。こうした身の回りの体験が「身近な地域資源を活かしたまちづくり」につながるのではないかと考えている。

また、姪浜住吉神社のイチョウは樹齢 700 年を超える御神木であるが、今でも元気に新緑⇒深緑⇒紅葉⇒落葉⇒新緑のサイクルを繰り返しており、新緑や紅葉の時期は一段と存在感が大きい。大名にある JT 跡地（現在はマンション敷地内）の樹齢 400 年のイチョウは再生治療が進められているが、こちらも眩い新緑が印象的である。

福岡市愛宕浜　自宅近くのケヤキ並木の新緑（左）、イチョウ並木の新緑（右）

福岡市薬院　勤務先近くのケヤキ並木の新緑

福岡市姪浜　姪浜住吉神社の樹齢 700 年を超えるイチョウの新緑（左、中）
福岡市大名　再生治療が進められている樹齢 400 年のイチョウの新緑（右）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	四季を実感する旅③－１	場所	阿蘇市

身近な場所を除けば四季の変化を定点観測することは時間的、空間的（距離的）に難しいが、1年に数回訪れる阿蘇の草千里は筆者にとってはその典型的な場所の一つである。冬は行ったことがないが、「野焼き後の真っ黒な景観」「初夏の新緑の景観」「盛夏の深緑の景観」「晩秋の紅葉の景観」と四季折々で全く異なる風景を楽しめ、阿蘇を代表する風景の一つとなっている。草原の植物も様々に変化し、一層四季の変化を演出している。

筆者は 2016 年3月 21 日に草千里を訪れているが、2010 年の宮崎県での口蹄疫発生後に牛の放牧が中止され、草原を維持するために 50 年振りに野焼きが行われた後であった。その後同年4月 14 日と 16 日の震度7の熊本地震で阿蘇地方も甚大は被害を受けたこともあり、筆者は特に印象に残っている。

（次ページに続く）

阿蘇市 草千里 野焼き後の景観（2016 年3月 21 日撮影）

同上 初夏の新緑の景観（2020 年5月 23 日撮影）

同上 盛夏の深緑の景観（2018 年8月 14 日撮影）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	四季を実感する旅③－２	場所	阿蘇市

（次ページから続く）

国の天然記念物である米塚も草千里を訪れた時にあわせて行く場所であり、草千里と同様に「初夏の新緑の景観」「盛夏の深緑の景観」「晩秋の紅葉の景観」と四季折々で全く異なる風景を楽しめる。初夏から盛夏にかけての鮮やかな緑色や、晩秋の茜色に輝くススキとのコントラストもきれいである。

米塚も熊本地震で被害を受け斜面に亀裂が入り、痛々しい山容であったが、少しずつ回復しているようである。完全に癒えるには時間がかかるが、自然の治癒力には驚かされるものがある。

阿蘇市　草千里　晩秋の紅葉の景観（2019 年 10 月 28 日撮影）

阿蘇市　米塚　盛夏の深緑の景観（左：2018 年8月 14 日撮影）
晩秋の紅葉の景観（右：2019 年 10 月 28 日撮影）

阿蘇市　草千里展望所から見た米塚（左）、米塚下園地のススキ（右）※共に 2019 年 10 月 28 日撮影

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	四季を実感する旅④	場所	小布施町、長野市

「四季」が一番わかりやすいのが四季折々の花であろう。筆者が印象に残っているのが地域全体で花のまちづくりに取り組んでいる小布施町であり、メインストリートだけでなく、小さな空き地や民家の軒先、畑の一隅でも心のこもった美しい花壇に出会うことができる。

また、「丹精込めた庭を、より多くの人と楽しもう」「出会いや交流を通じて、花と緑があふれる豊かな生活文化を高めよう」という願いを込めて、個人の庭を公開する『小布施オープンガーデン』が推進されている。2000 年から始まったオープンガーデンは日本で最初の取り組みであり、現在までに約130 箇所の個人庭園が公開されている。その後、長野市の松代でも同様の取り組みが行われている。九州では久留米市の田主丸等で実践されている。

小布施町 まちのそこかしこで展開される花のまちづくり

小布施町 花のまちづくりの拠点であるフローラルガーデンおぶせ（左）、オープンガーデンの案内板（右）

小布施町 オープンガーデンの例（左）、長野市松代 お庭拝見（オープンガーデン）の例（右）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	四季を実感する旅⑤	場所	長崎市

長崎市では毎年5月下旬～6月中旬に「紫陽花（おたくさ）まつり」が市内の各所で実施されている。長崎市の花にもなっている紫陽花は出島のオランダ商館医シーボルトの愛した女性お滝の名前にちなんで「おたくさ」と呼ばれており、期間中は見ごろを迎えた多くの種類のアジサイが市内各所（出島、中島川周辺、興福寺、グラバー庭園、シーボルト記念館等）に設置され、まちなかを彩る。

より一層風情ある町並みが演出されるこの時期は、紫陽花を通してシーボルトという人物やシーボルトと長崎との関わりを知り、ひいては地域の歴史や魅力を再認識する絶好の機会になるのではないだろうか。

長崎市　市内の各所で展開される「紫陽花（おたくさ）まつり」

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的町並みとお雛様巡りの旅①	場所	朝倉市、うきは市

春のお雛様巡りは各地で定着している。その中でも歴史的町並みでのお雛様巡りはより雰囲気が出ている。筆者も 2020 年の春に近郊の「歴史的町並みとお雛様巡りの旅」を楽しんだ。朝倉市秋月、うきは市筑後吉井、八女市八女福島、佐賀市柳町と相互に近いエリアであるが、それぞれの地域の特徴が出ている。

秋月は長屋門前の石段に 350 体の雛人形が並べられ、圧巻の景色が広がっていた。テレビや新聞で見ていたが、実際に見ると壮観である。筑後吉井はお雛様や歌舞伎、浮世絵を題材にして各家々の女性が手作りした「おきあげ」や、箱のままでお内裏様が飾れるようになっている「箱雛」が特徴である。筑後吉井では 1993 年から実施されており 2021 年で 29 回目を迎えている。

朝倉市 秋月のお雛様巡り

うきは市 筑後吉井のお雛様巡り

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的町並みとお雛様巡りの旅②	場所	八女市、佐賀市

八女福島では 1998 年から「雛の里・八女ぼんぼりまつり」と称したイベントが開催され、約 100 軒の民家や商店が江戸期から現在までのお雛様を展示している。なかでも江戸期から昭和 30 年代まで作られていた素朴な「箱雛」が伝統工芸の町・八女福島の特徴である。

佐賀市では柳町を中心としたエリアで「佐賀城下ひなまつり」が開催され、伝統工芸手織り佐賀錦や鍋島小紋の衣装を着たお雛様、生花のお雛様が特徴である。古い町家等を活用したこだわりのお店も続々と誕生しており、あわせて訪問するとより楽しみも広がる。

4つの地域のお雛様巡りを紹介したが、歴史的町並みの中の伝統的な建物の中でこそ、よりお雛様が映えるものであり、毎年多くの人々が訪れ、いずれも春の風物詩となっている。

八女市 八女福島のお雛様巡り

佐賀市 柳町のお雛様巡り

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	歴史的町並みとお雛様巡りの旅③	場所	有田町、伊万里市

2021 年の春に佐賀県有田町と伊万里市のお雛様巡りをする機会に恵まれた。歴史的な町並みが特徴である有田町内山地区では町内の施設や陶磁器店に、焼物のまちならではの有田焼のお雛様やその家に代々伝わる雛人形が展示され、生活と産業、文化、景観が息づく有田町ならではの魅力を醸し出している。有田館では世界最大の磁器製雛人形二段飾りが展示され、深川製磁本店や香蘭社、今右衛門窯等の老舗の窯元でも各社オリジナルの雛人形が展示されている。

また、伊万里市の古伊万里通りでは 2020 年からお雛様巡りが行われており、伊万里焼のお雛様や各家庭に代々伝わる雛人形等が展示され、賑わいの少なくなった商店街を活性化しようという意気込みを感じることができた。なかでも、伊万里市二里町の前田家（古伊万里酒造）に伝わる貝合わせが印象に残っている。

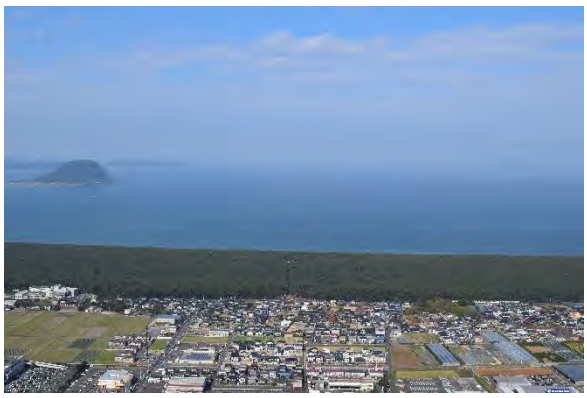
有田町　内山地区の雛巡り

伊万里市　古伊万里通りの雛巡り

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	松原の魅力を実感する旅①	場所	唐津市

松原は防風林として植樹されたものもあれば、海岸に天然の松原が形成されたものもあり、松林越しに砂浜と海が見える風景は日本的な情緒を醸し出している。いろいろな地域に松原と名の付く場所があるが、何らかの形で松原が形成されていたと思われ、今でもその名残を感じることができる。

その中で筆者がよく訪問するのが、唐津市の虹の松原である。ここは国の特別名勝で、三保の松原、気比(けひ)の松原とともに日本三大松原のひとつに数えられる景勝地であり、長さ約 4.5km、幅約 0.5km にわたり、約 100 万本のクロマツが群生している。17 世紀の初めに防風・防潮のため、海岸線の砂丘にクロマツを植林したのが始まりとされており、南側の鏡山から見ると、青い海と空を背景に緑の松の美しいコントラストが印象的である。



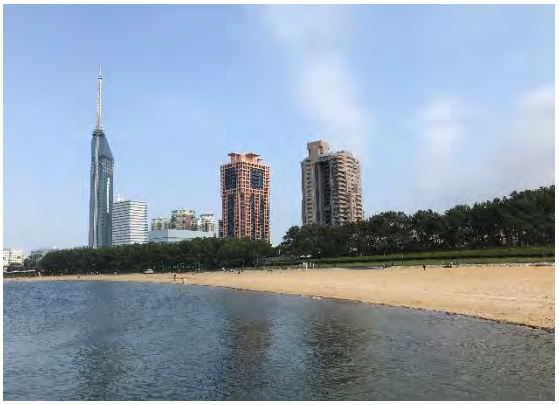
唐津市 虹の松原

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	松原の魅力を実感する旅②	場所	福岡市

筆者が暮らす愛宕浜の近くにも身近な松原がある。西区の生の松原は、博多湾に面した約 40ha にわたって広がるクロマツを主体とした松林で（旧唐津街道に沿って十郎川河口部から西に展開）、「日本の白砂青松 100 選」にも選定されている。神功皇后が三韓出兵の際に植えた松が起源と伝わり、元寇防塁も残るなど歴史的にも貴重な場所である。福岡市内では百道、箱崎等にも同じような松原があったが、都市化で姿を消し、生の松原だけが現存する。

また、埋め立てによって造られたシーサイドももちや西福岡マリナタウンの海岸線に整備された海浜公園では、植樹された松も成長し、今では新たな松原として白砂青松の空間となっている。これらが埋め立てられる前までは海に面していた百道や豊浜には今でも松林が残り、当時の海岸線の名残が感じられる。こうした視点でまち歩きをすることも楽しい。

福岡市　生の松原



福岡市　シーサイドももち（百道浜）

福岡市　西福岡マリナタウン（愛宕浜）

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	樹木を巡る旅①－１	場所	高森町

樹木を巡る旅も様々なテーマがある。まずは巨樹。神社の境内や人里離れた山の中にひっそりと佇んでいる御神木や巨樹は、樹齢数百年どころか千年を超えるものもある。古い樹木や巨樹には聖霊や神様が宿るとされ、信仰の対象として崇められるようになった。

木の高さや幹回りの太さだけでなく、形や枝ぶり、幹の表情等を観察すると、その樹木の歴史や生き様を想像でき、人間社会と置き換えて考えることもできる。長い間、台風や雷等の自然災害を乗り越えて生き残り、地域や人々を見守ってきた巨樹を巡る旅から、筆者は自然の驚異、季節感、地域性、人の生き様等を学んでいる。

高森町　樹齢 400 年超の高森殿の杉。幹周 10mを超える夫婦杉で、大きな幹からいくつもの枝が四方に広がり神秘的な雰囲気を醸し出している。

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	樹木を巡る旅①－２	場所	霧島市、長崎市等

樹木を巡る旅も様々なテーマがある。まずは巨樹。神社の境内や人里離れた山の中にひっそりと佇んでいる御神木や巨樹は、樹齢数百年どころか千年を超えるものもある。古い樹木や巨樹には聖霊や神様が宿るとされ、信仰の対象として崇められるようになった。

木の高さや幹回りの太さだけでなく、形や枝ぶり、幹の表情等を観察すると、その樹木の歴史や生き様を想像でき、人間社会と置き換えて考えることもできる。長い間、台風や雷等の自然災害を乗り越えて生き残り、地域や人々を見守ってきた巨樹を巡る旅から、筆者は自然の驚異、季節感、地域性、人の生き様等を学んでいる。

霧島市　霧島神宮の樹齢 800 年の杉

長崎市　松森神社の樹齢 300 年のクスノキ

宇佐市　宇佐神宮の樹齢 800 年のクスノキ

鳥栖市　田代八坂神社の樹齢 600 年のクスノキ

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	樹木を巡る旅①－３	場所	南阿蘇村、福岡市等

樹木を巡る旅も様々なテーマがある。まずは巨樹。神社の境内や人里離れた山の中にひっそりと佇んでいる御神木や巨樹は、樹齢数百年どころか千年を超えるものもある。古い樹木や巨樹には聖霊や神様が宿るとされ、信仰の対象として崇められるようになった。

木の高さや幹回りの太さだけでなく、形や枝ぶり、幹の表情等を観察すると、その樹木の歴史や生き様を想像でき、人間社会と置き換えて考えることもできる。長い間、台風や雷等の自然災害を乗り越えて生き残り、地域や人々を見守ってきた巨樹を巡る旅から、筆者は自然の驚異、季節感、地域性、人の生き様等を学んでいる。

南阿蘇村　樹齢 400 年の一心行の桜

福岡市　姪浜住吉神社の樹齢 700 年のイチョウ

南阿蘇村　樹齢 90 年の観音桜

糸島市　雷山千如寺大悲王院の樹齢 400 年のカエデ

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	樹木を巡る旅②	場所	長崎市、福岡市

次は原子爆弾の被害から復活を遂げた樹木や、老化により再生治療が進められている樹木を巡る旅である。長崎市の山王神社境内入口にある被爆クスノキ（樹齢 500 年）は、1945 年８月９日に長崎市上空で炸裂した原子爆弾により幹に亀裂が入り、枝葉も吹き飛ばされ、一時は枯死寸前となったが、次第に樹勢を取り戻し奇跡の復活を遂げた。驚くべき生命力である。長崎市では、被爆樹木は爆心地から約4km の範囲に 47 本が確認されている。

また、福岡市大名の JT 跡地にある樹齢 400 年のイチョウは、都市化で衰え、幹の空洞化も進んだため、2013 年から 100 年計画で再生治療が進められている。「飯田屋敷の大銀杏」と呼ばれる樹木の再生を通して、福岡の歴史を知り、樹木の生命力を感じてほしいものである。

長崎市 山王神社境内にある樹齢500年の「被爆クスノキ」（上、中）。樹木の生命力を伝えている。また、参道にある「一本足の鳥居」（下）とともに戦争の悲惨さや平和の大切さを語りかけている。

福岡市 「飯田屋敷の大銀杏」と呼ばれる樹齢400年のイチョウ。100 年計画で再生治療が進められている。福岡の歴史と樹木の生命力を伝えている。

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	ローカル線の旅①	場所	南阿蘇鉄道沿線

のどかな田園や青い海が広がる風景をのんびりと眺めながら移動を楽しめるのが、ローカル線の魅力である。プライベートでは南阿蘇鉄道、仕事では松浦鉄道や島原鉄道、JR 大村線に乗る機会が多く、沿線の多彩な風景を楽しんでいる。

南阿蘇鉄道は 2016 年4月の熊本地震で被害を受けたが、同年7月末に高森駅～中松駅間が復旧し運転を再開している。職員だけでなく沿線の住民の皆さんが地域に誇りを持っていることをいろいろな場面で感じることができた。最近では 2019 年 11 月、2020 年5月、同年8月に訪問したが、季節によって変わっていく農山村の風景を楽しんでいる。

高森町～南阿蘇村　南阿蘇鉄道沿線の風景

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	ローカル線の旅②	場所	松浦鉄道沿線

仕事でよく乗るのが松浦鉄道である。松浦鉄道は有田町～伊万里市～松浦市～平戸市～佐世保市を結ぶ全長約 94km の鉄道であり、有田焼や伊万里焼、有田内山地区の伝統的な町並み、教会や集落、棚田、アジフライに代表される食等の多くの魅力資源が存在する。

沿線の特徴としては、沿線の学校に協力してもらって駅に壁画を飾る事業を進めており、全 57 駅中 40 駅で心のこもった絵を見ることができる（2019 年3月現在）。また、多くの駅で桜を植えており、桜の咲く頃になると浦ノ崎駅や吉井駅、久原駅は多くの来訪者で賑わっている。

一つひとつの駅は点であるが、松浦鉄道沿線を一つのエリアと考えれば、それぞれの地域の個性がより明確になり、県域や市町村域を超えた様々な広域連携による地域づくりが可能になるのではないだろうか。

松浦鉄道沿線の風景

焼物のまちの風景。有田内山地区（左、中）、伊万里大川内山（右）

沿線の学校の協力による壁画設置（左、中）。各駅に愛称が付けられている（右）。

伊万里焼（左）、佐世保独楽（中）、松浦のアジフライ（右）

松浦鉄道沿線の多彩な魅力資源

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	ローカル線の旅③－１	場所	JR 大村線沿線①

広域連携という視点に立つと、大村湾沿岸の市町（長崎市、佐世保市、諫早市、大村市、西海市、時津町、長与町、東彼杵町、川棚町及び波佐見町）にも多くの魅力資源が存在する。
大村市は大村藩の城下町であり、石垣や花の美しい玖島城跡、今も生活が息づく4つの武家屋敷通りと風情ある石垣、海と密接な関わりがあった大村藩や玖島城跡の性格を示すお船蔵跡、大河ドラマのロケ地となった古松の美しい寺島、斜面を利用した枯山水の庭園である旧円融寺庭園等の歴史的な資源がまちなかに集積し、散策しながらその魅力を楽しむことができる。
また、長崎街道沿いの松原宿にも歴史的な雰囲気の町並みが継承され、500 年の伝統のある松原刃物も受け継がれている。そして、市内の至る所から大村湾の景色を眺めることができ、とりわけ夕日の美しさが印象に残っている。
（次ページに続く）

玖島城跡（左）、オオムラザクラ（中）、草場小路武家屋敷通り（右）

大村藩お船蔵跡（左）、寺島（中）、旧円融寺庭園（右）

歴史と伝統が息づく松原宿の町並み

大村湾の景観

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	ローカル線の旅③－２	場所	JR 大村線沿線②

（次ページから続く）

東彼杵町の千綿駅は大村湾に面した駅で、「海に最も近い駅」として海や電車の撮影にやってくる人が後を絶たない。ホームから見える大村湾の絶景、築 90 年以上のノスタルジックな木造駅舎に加え、駅舎内に併設された千綿食堂の美味しいスパイスカレーも魅力である。

また、「Sorriso riso（ソリッソリッソ）千綿第三瀬戸米倉庫」は以前は JA の米倉庫だったが、現在は地産のそのぎ茶を購入できる体験型のショップとカフェが併設されている。古い米倉庫をリノベーションした空間はおしゃれで心地よい空間を提供している。

すぐ近くには、同様に古い建物をリノベーションしたアンティークショップやパン屋、フランス料理店等があり、エリア全体として魅力ある空間となっている。わずか5年の間に約 20 店舗がオープンし、50 人近くが新規に移住しているとのことである。今後の展開が楽しみなエリアである。

大村湾に面した JR 千綿駅と千綿食堂

Sorriso riso（ソリッソリッソ）千綿第三瀬戸米倉庫

アンティークショップ（左）、パン屋（中）、フランス料理店（右）

以上、大村市と東彼杵町千綿駅周辺の魅力を一部紹介してきたが、大村湾沿岸の地域はそれぞれ歴史、自然、食等の多様な魅力資源を有しており、広域的エリアで対比することでそれぞれの地域の魅力をより明確にすることができるのではないだろうか。特に、地域の個性が明確な長崎市と佐世保市の中間に位置する諫早市や大村市、東彼杵町がその魅力をさらに高め、地域内外に PR することで、大村湾沿岸の地域の一層の広域連携が可能になると思う。筆者は小さなまち旅を通して、「大村湾沿岸の地域は十域十色」というポテンシャルを持っていると感じている。

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	ローカル線の旅④－１	場所	霧島市

ローカル線を旅していると古い木造の駅舎に出会うことがある。明治～大正～昭和～平成～令和の5つの時代を生き抜いてきたものもあり、レトロな佇まいが郷愁を誘っている。筆者が訪問した中では、JR 三角線の網田(おうだ)駅が明治 32 年（1899 年）、JR 肥薩線の嘉例川(かれいがわ)駅と大隅横川駅が明治 36 年（1903 年）、小城駅も明治 36 年（1903 年）となっている。また、前述の JR 大村線の千綿駅が昭和3年（1928 年）、大村駅も大正6年（1917 年）となっている。

昭和後期の国鉄民営化や平成のバリアフリー化・耐震化等の際に駅舎の近代化が進み、古い木造駅舎は次第に姿を消していったが、現存する駅舎については価値を見直し、改修による保存を進めていってほしい。

霧島市　JR嘉例川(かれいがわ)駅

霧島市　JR 大隅横川駅

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	ローカル線の旅④－２	場所	宇土市、東彼杵町等

ローカル線を旅していると古い木造の駅舎に出会うことがある。明治～大正～昭和～平成～令和の5つの時代を生き抜いてきたものもあり、レトロな佇まいが郷愁を誘っている。筆者が訪問した中では、JR 三角線の網田(おうだ)駅が明治 32 年（1899 年）、JR 肥薩線の嘉例川(かれいがわ)駅と大隅横川駅が明治 36 年（1903 年）、小城駅も明治 36 年（1903 年）となっている。また、前述の JR 大村線の千綿駅が昭和3年（1928 年）、大村駅も大正6年（1917 年）となっている。

昭和後期の国鉄民営化や平成のバリアフリー化・耐震化等の際に駅舎の近代化が進み、古い木造駅舎は次第に姿を消していったが、現存する駅舎については価値を見直し、改修による保存を進めていってほしい。

宇土市　JR網田(おうだ)駅

東彼杵町　JR 千綿駅

大村市　JR 大村駅

熊本市　JR 川尻駅

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	ローカル線の旅⑤	場所	諫早市

現在の職場では長崎方面の仕事が多く、博多から長崎に向かう特急電車で気になっていた風景がある。諫早市小長井地域の牡蛎養殖の風景とフルーツをかたどったバス停が続く風景である。小長井地域は牡蛎の名産地ということで、2012 年の「かき日本一決定戦（主催：日本オイスター協会）」では小長井町漁協のブランド牡蛎「華漣」が日本一に選ばれている。JR 小長井駅で途中下車し、海岸線からではあるが、牡蛎の名産地の風景を垣間見ることができた。

また、フルーツバス停は 1990 年に開催された長崎旅博覧会で、長崎県の玄関口として訪れる人々の心を和ませる目的で、当時の小長井町が整備したものである。イチゴやメロン、ミカンなど全5種類 16 基のフルーツを模したバス停が国道沿いを中心に設置されている。「ときめきフルーツバス停通り」と名付けられ、地域の人々のランドマークとして親しまれているという。

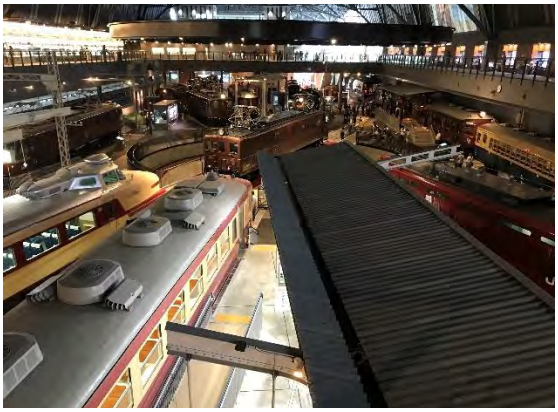
諫早市　小長井地域の牡蛎養殖の風景

諫早市　小長井地域のフルーツバス停

大テーマ	季節、花、樹木、鉄道		
テーマ	鉄道ミュージアムを巡る旅	場所	さいたま市等

「鉄道博物館」に代表される鉄道ミュージアムは全国各地に存在する。筆者もさいたま市にある「鉄道博物館」の他、北九州市にある「九州鉄道記念館」、人吉市にある「人吉鉄道ミュージアム」等を訪問し、若いころに乗った車両を見て懐かしく思っているところである。鉄道はわが国の近代化を担って開業し、その後の社会の変化に追随しながら変化してきている。

2019 年6月に鉄道博物館を訪問した際、思わぬ発見があった。それは 1997 年に鉄道車両として初めて国の重要文化財に指定された「1号機関車（150 形蒸気機関車）」が 1911 年～1930 年に島原鉄道を走っていたことである。1号機関車は 1872 年に開業した新橋～横浜間に導入され、転属を重ね、1911 年の島原鉄道開業時に同鉄道に移り、創業期の顔として活躍した。仕事でよく利用する島原鉄道の歴史のひとこまを鉄道博物館で知ることになったのである。



さいたま市 鉄道博物館 内部（左）、国指定重要文化財の1号機関車（右）

さいたま市 鉄道博物館 1号機関車の国指定重要文化財等の表示プレート（左）、島原鉄道から国鉄に返還される際に取り付けられた銘板（右）

島原市～諫早市 島原鉄道の現在の車両（左）、大三東（おおみさき）駅の風景（右）